

# 日風園

〈高知県立歴史民俗資料館だより・おこうふうじつ〉

第91号 2015年10月1日

東京国立博物館所蔵作品から

## 土佐清水市足摺岬・伊佐経塚の造営と観音信仰

— 足摺岬先端に埋納された鎌倉時代の経筒 —

岡本 桂典

経典を主体とし埋納されたところを一般に経塚と呼称しています。埋納は、仏教的作善業（善根を行うこと。堂塔、仏像造立、写経、追善供養などを行なうこと。）の一つとして10世紀末葉に日本で始められたとされ、現在も行なわれています。最古の紀年銘（年号銘）をもつ経塚は、藤原道長が奈良県の金峯山に寛弘4年（1007）に営んだ金峯山経塚です。経塚は当初、末法思想を背景として営まれたと考えられて



土佐清水市足摺岬 燈台の下に埋納されていた 平成27年3月



燈台の下に埋納されていた経筒 2口 土佐清水市伊佐経塚  
東京国立博物館所蔵 Image:TNM Image Archives

います。つまり、弥勒菩薩が釈迦の入滅後、56億7000万年後にこの世に現れ、竜華樹（想像上の樹木）の下で説法する時に備え、経典を保全しておきたいという意図のもとで営まれたとされていますが、造営者の現世の心理的欲求や文化的なものを背景とし、諸信仰が複雑に交わりながら造営された

と考えられています。

さて、大正4年（1915）の『東京帝室博物館 埋蔵物録一 大正四年』には「高知県幡多郡松村字伊佐ニ於テ発掘ノ経筒二個同県ヨリ寄贈ノ件（五月）」（時枝務「近代国家と考古学」『東京国立博物館紀要』第36号 2001年より）と記録があり、足摺岬の伊佐から発掘された経筒二口が上野の東京国立博物館に寄贈されていることがわかります。この経筒は、燈台を造る時に出土したもので、口径が15・6cm、高さ23・6cmあり、中に経典が納められた痕跡が確認できます。鎌倉時代のものでされ、副納品があったのではないかと推定されます。ここには、金剛福寺（現・四国八十八ヶ所霊場第三十八番札所）があります。正嘉2年（1258）に発給された一条家政所下文には弘法大師により建立されたという由緒と「千手観音霊験地」とし金剛福寺が霊地として位置づけられています。金剛福寺の本尊千手観音立像からは、暦応5年（1342）の胎内銘及び血書を含む経典など多くの納入品が確認されています。この経塚の造営は千手観音の造像と関係が深いと考えられています。伊佐経塚は、観音信仰や補陀落渡海信仰などを背景として営まれたと考えられます。そこに霊地と海の道という存在も想定されます。

東京国立博物館から里帰りした出土品たち

# 企画展 里帰り！土佐の出土品

平成27年10月9日(金)～12月6日(日) 岡本 桂典



## はじめに

高知県立歴史民俗資料館が開館した5年後の平成8年に、東京国立博物館里帰り展を開催するため、平成5年度から東京国立博物館（以下愛称・東博、所在地・東京都上野公園）が所蔵する考古資料の資料調査を始めましたが、この時は文化庁の巡回展などのため企画までには至りませんでした。

本年度、東京国立博物館の協力で東博里帰りが実現する運びとなりました。この事業は、「博物館所蔵の考古資料相互活用促進事業」として実現した展示です。

なお、東博では土佐市居徳遺跡群出土の土偶などや弥生時代の土佐の青銅器が展示される予定です。

東博が所蔵する土佐の出土品について述べてみたいと思います。

## 明治43年に東博に寄贈された

### 古墳出土の鉄製品

東博には、明治時代の初めころから



南国市片山観音堂 寺ノマエ 平成27年9月

昭和時代に各地から発見された出土品が納められています。その中には、研究者も実見したことのない資料があります。まず、ここでは明治時代に東博に所蔵された南国市片山の古墳出土資料について考古学史料でもある文献を絡めながら、紹介しておきたいと思えます。

本紙の6頁の「学芸員の机」で紹介した東博の明治43年（1910）『埋蔵物録』の件名に「長岡郡三和村字寺



鉄頭（模造品） 片山寺ノマエの古墳出土  
東京国立博物館蔵 Image:TNM Image Archives

のは、<sup>(つ)</sup>二於テ発掘ノ鉄外二点（寄贈者人名）ヨリ寄贈ノ件」とみえています。発掘した鉄製鉄の外二点を寄贈したとありますが、すでにこの古墳について楠目勝馬が、明治29年（1896）3月の『東京人類學會雜誌』第120号に「土佐國諸郡古墳」の中で「其他古墳ナクシテ土器破片ヲ発見セシ所 香美郡 田村。三和村」として紹介しています。この時すでに古墳の石室が開口され須恵器が出土していたことがわかります。東博の台帳にも鉄、轡残片、斧、以上3点の外陶器類も発見しているが差し出していないとあること

## コラム

### 考古資料相互活用促進事業

「博物館所蔵の考古資料相互活用促進事業」（以下、「考古相互貸借」と呼びます）による展示です。

考古相互貸借は、「国立博物館並びに公私立の博物館・美術館及び埋蔵文化財センター等が所蔵する考古資料について、その相互貸借による体系的な展示・公開を行うことにより、考古資料のより有効な活用を図り、国民の多様かつ高度な学習ニーズに応えるとともに、それぞれの博物館等における研究・展示等の活動の充実を図る」ことを目的とし、1年を原則として貸借を行なう、それぞれの展示の場で資料の活用を図っています。

そのために、国立博物館は必要に応じて、所蔵品の修理・レプリカの作製なども行なっています。なお、この事業は平成10年度に文化庁事業として始まった事業です。

（東京国立博物館「特集陳列 古墳時代の神マツリ」、「特集陳列 信濃の赤い土器」と相互貸借事業 文化庁月報平成23年12月号（No.519）より

が『高知県史』考古編 昭和43年)、このことを物語っています。

この古墳は、通称片山古墳群と呼ばれています。昭和34年(1959)に刊行された岡本健児『土佐の原始と古代文化―高知県の考古学入門―』の「高知県考古遺跡地名表(昭和33・12・31作成)」には、「長岡郡香長村片山観音堂」1号、附近2号、3号墳まで掲載されています。

1号墳は消滅とされ、2号は現在秋葉山南平古墳、3号墳は蔵光古墳とも呼ばれています。1号墳は、片山寺ノマエにあった古墳で、明治41・42年に発掘され、大正時代に開墾された『高知県史』考古編には記されています。片山寺ノマエの古墳から出土したとされる鉄器は東博に所蔵されています。明治時代の出土ですから、鉄器は保存状態が悪くなっていますが、幸い鍬は模造品が製作されており、今回の一点が里帰りしました。また、南国市教育委員会が所蔵している遺物の中に片山古墳群から出土した須恵器が存在していることが確認されました。発掘された方は、東博に鍬などの鉄器類を寄贈した方と同じ人物でした。

なお、当館の寺石正路コレクションに片山古墳群から出土した須恵器が一点存在していますが、寺石正路がこの須恵器を入手したのは、今回の東博所

蔵資料と土佐の考古学史料から明治の41・42年前後ではないかと推測することできました。この片山古墳群は、一部石室などが残っているとあるようです。正式な発掘調査は実施していませんが、円墳と考えられ、時期は古墳時代後期とされています。明治時代から大正時代にかけて東博に寄贈された資料は他にもありますが、他の資料については後で述べたいと思います。

### 昭和29年に須崎市下分波介<sup>はげ</sup>から出土した弥生時代の銅剣

東博には工芸品として弥生時代の銅矛一口と銅剣三口が所蔵されています。



須崎市波介遺跡遠景 平成27年9月

銅矛は、長岡郡本山町北山瀬ノ上から大正7年(1918)に山林内で発掘されたもので、今回は銅矛が脆弱であるため借受は不可能でした。

もう一件は、昭和29年(1954)2月、須崎市下分波介1119番地の個人宅裏山を蜜柑畑に開墾中に偶然掘り出された銅剣です。この銅剣の発見は、昭和29年3月4日の『高知新聞』の「話の屑籠」に「裏山から鎗の穂先の

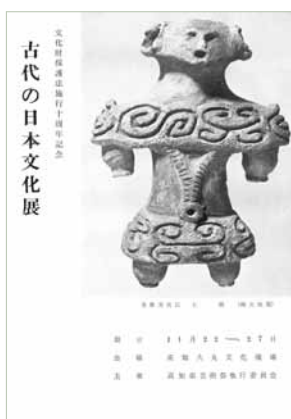


須崎市波介出土 銅剣  
3口の内の1口

料と折紙 須崎で発見の銅剣、国家保管に」との記事が掲載され、発見後の高知県の対応の様子がわかります。先述した『土佐の原始と古代文化―高知県の考古学入門―』にすぐに取り上げられ、出土地の写真も掲載されています。本年度の調査で発見者の方と偶然お会いすることができたことは幸いでした。また、地域には銅剣の出土と銅剣が東京国立博物館に納められていることが伝わっていました。考古遺物発見伝承ともいえ、新たな考古学史の一面となると思います。

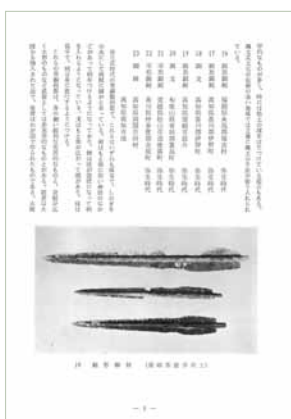
出土地は、現在圃場整備のために土を採取したため、発見当初の地形は残念ながら失われています。

さて、この銅剣は3口出土している



『古代の日本文化展』表紙

三つそろって飛び出す」という題で小さく掲載されています。新聞には、発見者が銅剣を抱えて写っていて、地域では大評判となっており、神主さんから寄贈の依頼もあったようです。この記事を見た当時の高等学校教諭の岡本健児は、高知県教育委員会の池田真澄に連絡をとり調査に行き、昭和30年3月には調査報告が『高知県文化財調査報告書(第7集)』として刊行されました。この銅剣は、貴重な青銅器であることから、国の文化財保護委員会が買い上げ、国の保管となりました。このことについて、昭和30年1月12日の『高知新聞』には、「貴重な資



同右須崎市波介の銅剣写真

のですが、今回は他の2口は長距離運送に耐えられないということで、1口のみの公開となります。この銅剣は実は一度高知で三口とも公開されているようです。公開展示された時期は、昭和35年の11月22日から27日までの間で、それは「文化財保護法施行十周年記念 古代の日本文化展」として、主催が高知県芸術祭執行委員会、会場は高知大丸文化催場で行なわれています。所謂、デパート展示と呼ばれている催し物で、かつてはよく行なわれていました。この時は、現在ではあまり考えられませんが国宝や重要文化財が公開されています。この展示会のパンフレットが当館に大切に保管されていました。もちろん印刷は白黒で、解説図録（展覧品解説 岡本健児）にあたるものです。大きさは縦21・4cm、横15・2cm、12頁で、東博所蔵などの土偶や埴輪、鏡、馬具、銅鐸などの土器や銅器、高岡郡日高村小村神社の国宝金銅荘環頭大刀も展示されていたことがわかります。このパンフレットには、高知県教育委員会社会教育課長の挨拶文があり、文化財保護法施行十周年記念として全国各地で文化財展が開かれていたこと、展覧会の開催には東京国立博物館や小村神社が多大な協力をしたことが書かれています。

## 東博に所蔵される古代寺院の瓦と窯跡の瓦

古代の出土遺物で東博に所蔵されているものについてみてみたいと思います。古代では、やはり古代寺院の瓦当が眼についてたのか、軒丸瓦が所蔵されています。瓦に「土佐比江村（南国市比江）」と書いた瓦があり比江廃寺出土の軒丸瓦片と思われる遺物もあります。平安時代の遺物として、香南市野市町佐古にある紀夏井邸跡出土（亀



「土佐比江村」出土瓦の『御物』の貼り紙  
Image:TNM Image Archives

山窯跡群）とされる軒平瓦の小片などがあります。特に香美郡・南国市の著名な古代の寺院や窯跡の出土遺物が所蔵されていることがわかります。また、瓦には『御物』という貼り紙が付されているものがあります。これはかつて東博が明治19年3月から昭和22年5月に皇室から切り離されるまで、宮内省の管理下となっていたことを示すものです。

## 東博所蔵資料から新たな遺跡発見へ

東博に所蔵された考古資料のうち、金工品として管理されている遺物があ



いの町大内小八十出土の和鏡  
Image:TNM Image Archives

ります。この中に土佐の考古学史上知られていない作品があります。一つは、東博の『帝国博物館 明治三十年 埋蔵物録一』に、「高知県吾川郡三瀬村勝賀瀬山岩窟ニ於テ発見ノ古鏡（寄贈者人名）ヨリ献納ノ件」（一月）とあるものです。この勝賀瀬から発見された鎌倉時代の和鏡が一面所蔵されました。いの町勝賀瀬の古老の方に、その発見の事情が現在も伝承されていました。この遺跡には、道路の崩壊で足を伸ばせませんでした。岩窟で発見されたということが事実であれば興味深いことです。

次に『東京帝室博物館 大正八年埋蔵物録三』には「高知県高岡郡川内村大ヤソ重宗五六〇番地ニ於テ発掘シタル鏡壹面以下九点寄贈ニ関する件」

（十二月）という件名があります。この発見地はいの町役場などで調査したところ、いの町大内小八十にあり、現在畑地であることもわかりました。この発見地は、仁淀川右岸に立地し、河川に接しています。「九点」の遺物は、室町時代と思われる和鏡1面の他、備前焼壺1口、銭貨73枚（開元通寶（永楽通寶）と思われる、一括出土したものと考えられます。備前の壺内面には、銭貨の痕跡が残っていました。どうもこの遺跡は、知られていない銭貨を埋納した遺跡であると考えられ、永楽通寶を下限として考えると



いの町大内小八十出土の備前  
Image:TNM Image Archives

室町時代後期に埋められたものと推定されます。この出土地の対岸、仁淀川の支流宇治川に隣接して営まれた天神溝田遺跡からも銭貨を土師器皿に納め、備前壺に納め和鏡で蓋をした特殊な埋納遺物が出土しており、両者の関連が想定されます。

この他に東博所蔵の尾戸焼なども展示をします。

# 森金次郎の 剣術資料

当館は、土佐勤王党の盟主武市半平太の遺品を多数収蔵しています。数ある貴重な資料のうち、頻りに閲覧や貸し出し要請があるのが、半平太が土佐や江戸で剣術修行していた時の武術資料です。

なかでも、半平太が安政三年に江戸の桃井道場<sup>もものい</sup>に入門し、翌年に桃井春蔵から免許皆伝を受けたことを示す印可状。さらに四国・中国・九州諸藩の劍豪らとの対戦記録である「劍家英名録」などは大変注目されますが、今回森家から寄託された資料のなかに、非常によく似た資料が含まれていました。

所蔵者の先祖、森金次郎義高<sup>よしか</sup>（1838-1913）は、半平太と入れ替わるように、安政四年、兄義徳<sup>よしのり</sup>とともに桃井道場<sup>もものい</sup>に入門しました。義高が修業後に授けられた印可状を、半平太のものと比較してみると一目瞭然。大変よく似ていることが分かります。花押と署名等に若干の違いがありますが、偽造防止のため、意図的に変えていたのかもしれない。また、義高の「鏡新明智流桃井春蔵門人帳」の記載も、半平太の「劍家英銘録」と酷似する部分



①「鏡新明智流二之目」(武市家蔵)



②「鏡新明智流二之目」(森家蔵)



①の署名・花押部分



②の署名・花押部分

があり、当時の印可状の形式や、稽古記録の詳細を知ることができます。

義高は同時期に千葉道場にも出入りを許され、坂本龍馬とも交わったといえます。帰国後、文久元年に剣術の腕を買われて文武館の剣術指南役に抜擢されました。

森家資料の中には、武市半平太の描いた「竹溪山水図」もあります。土佐勤王党員との交流の記念に、義高が所望したものかもしれません。(野本)

# ウシグワを めぐって

旧大栃高校に保管してある民具からご紹介いたします。

ウシグワは農具の一種で、文字通り牛に牽<sup>ひ</sup>かせて田を耕す道具です。ただ、そう言ってもさまざまな問題があります。まず、名前ですがウシグワは方言

で標準名では犁<sup>すき</sup>、カラスキと言います。カラスキとある通り、唐(中国大陸)から渡来してきた民具のひとつです。では、犁<sup>すき</sup>を高知県ではウシグワと呼ぶ、と言えるかというところは間違いないです。おおむね幡多郡の範囲ではこの道具をスキと呼んでいます。県中部ではウシグワ、西部ではスキと呼ばれているのです。同様に馬鍬のことを、

中東部ではウマグワ、幡多郡ではカニコと呼びます。

ウシグワ、ウマグワという名前から、ウシグワは牛が、ウマグワは馬が牽いた故の命名でしょうが、高知県では実際には牛馬を使い分けていたわけではありません。そんな余裕は無かつたでしょう。牛を飼っている家は牛に、馬を飼っている家は馬にウシグワ・ウマグワともに牽かせたのです。

旧大栃高校の体育館には16点ほどのウシグワを保管しています。地面に接する部分(床)が長い古い型の長床犁<sup>ちゆうしょうり</sup>が1点、あとは近代型の短床犁<sup>たんしょうり</sup>です。ただ、短床犁<sup>たんしょうり</sup>であっても、ひとつひとつの形は異なっています。この変化を比較することで、形態の歴史変化や地域性を知ることができます。同じ種類の民具であつてもたくさん集めなくてはならない所以<sup>ゆえん</sup>です。(梅野)



津野町北川のスキグワ(ウシグワ)

床が長い古くからのタイプは館蔵ではこの1点のみ



近代的な短床犁

時代や地域によってさまざまな形に変化する



豊永郷民俗資料館に収蔵されているウシグワ  
これも古い型だが一番上の津野町の物と形態が異なっている

## 考古

### 『古墳横穴及同時代遺物発見地名表』 にみえる長岡郡三和村古墳

『古墳横穴及同時代遺物発見地名表』は、明治33年（1900）三月に刊行された本（大きさ、15×11cm）です。本文は292頁、「編纂兼発行者 東京帝國大學」、「賣捌所 東京市日本橋區通二丁目十番地 丸善株式會社書店」、販売価格は「金參拾四錢」。1903年には、収録地名を増やし再版されました。本書の「凡例」には、「東京帝國大學人類學教室の八木契三郎が蒔田鎗次郎の協力を得て作成したものとあり、地名表は「古墳横穴及び遺物発見地等主ナル者ナレドモ猶製陶所若クハ銅劍銅鉞等ノ出所地名モ」とあるように弥生時代の遺物発見地なども採録されています。緒言は、「東京帝國大學理学博士坪井正五郎。本書には、「(南海道) 土佐國七郡四十四箇處」の高知の地名表が掲載され、「香美郡三和村古墳土器 楠目勝馬報 東京人類學會雜誌 百廿號 二五一頁 (明治29年)」と現南国市片山の古墳が紹介されています。東



右、本文233頁「土佐國」



『古墳横穴及同時代遺物発見地名表』表紙

京国立博物館の『埋蔵物録』に明治42・43年ころに長岡郡三和村にて発掘した鉄など三点を寄贈したとあり、明治期より知られた古墳であったのです。

(岡本)

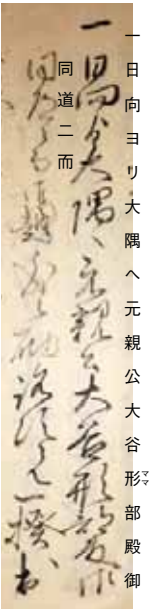
## 歴史

### 福井県の歴史に触れて

この夏、「若越城の会」からの講演依頼を受け、福井県に行ってきました。講演会前の空き時間、会長の山口充氏のご案内で一乗谷朝倉氏遺跡を見学。懇切丁寧なご説明をいただきました。実は大学二回生の時、一度訪問したことがあったのですが、当時からすると格段に遺跡整備もスケールアップ。堅固な城戸や華麗な庭園跡など、国人領主から戦国大名になった長宗我部氏と、守護から成長した朝倉氏の出自・伝統の差を痛感しました。折しも当日は「越前朝倉戦国まつり」の初日。なんと今年で45回目だとか。各地の戦国武将イベントの中では断トツの歴史があり、興味深く見学しました。

その後、講演会場の敦賀に移動。地元の研究者の方達と語らうなかで、この街の基礎が豊臣秀吉の奉行、大谷刑部少輔吉継によってつくられたことを知りました。そういえば、天正15年、秀吉による九州島津攻めにおいて、日向街道の警備を長宗我部元親と共同で行なった大谷吉継。思わぬところで接点を見出し、少しでも親近感が湧きました。前年の12月、豊後戸次川合戦で長男を失ったばかりの元親とどのようなことを語り合ったのでしょうか。兵站の名手といわれた吉継の力量に触れるなか、元親も様々な刺激を受けたことが推察されます。

(野本)



「先弥次兵衛殿一代手柄之書付」(部分) 入交太郎氏寄贈

## 民俗

### フィギュアは 民俗資料になるか？

夏の企画展「小さいもの見つけた！ー海洋堂のニッポン・ミニチュアカタログー」は、連日親子連れや年配のお客様で賑わいました。2階には動物や妖怪など海洋堂のフィギュアがズラリ。気になるのは、現代のフィギュアは郷土の歴史や民俗とは関係無いのでは？という点です。8月21日付の「高知新聞」でも、そのことは指摘されました。

確かにフィギュアを楽しむ文化は、高知県独自のものではないかも知れません。でも、多くの県民がフィギュア展を楽しんだのも事実です。とすれば、フィギュアも県民の歴史・文化の一齣であると言えるのでは？

そんなことを考えるのも、テレビや冷蔵庫など近現代の大量生産品を地域博物館はどう扱っていくかという課題があるからです。地域固有でないものを排除していくと、地域の博物館が集める現代資料は限られます。ただそれでは、この半世紀以降の県民の生活文化

が展示できません。これは高知県の歴史と文化を扱う当館にとってゆゆしき事態です。

もちろんいくらでも、とはいきませんが、近現代の生活文化を物語る資料は必要です。フィギュアもその一角を占める日が来るのかも知れません。

(梅野)





物部町神池に伝わるフイによるゴザ編み



ズラリ並んだ民具 (写真はいずれも昨年開催時のもの)

## 第4回旧大栃高校民俗資料一般公開 モノベモノモノガタリプログラム

「中山間地域の価値創造と継承」

10月24日(土)  
25日(日)  
開催!

もう4回目になる旧大栃高校(香美市物部町)保管の民俗資料一般公開。今年さらなる展開を求めて、NPO法人「いななかみ」や高知工科大学と連携、「いななかみ」がモノベモノモノガタリプログラムを企画し、一般公開と同時開催することになりました。中山間地域は過疎・高齢化のために地域文化や歴史が消滅の危機に瀕しています。地域の歴史・文化資源を見直し、新たな価値を創造し、保存・継承に努めるため、民具の実演やワークショップ、県立大生による公開調査を実施します。毎年少しずつ進化を続ける大栃企画にぜひご参加下さい。(梅野)

- 平成27年10月24日(土)・25日(日)  
午前9時30分〜午後4時30分  
旧大栃高校 体育館・格技場 他  
入場料〓無料、ワークショップ〓参加費要・事前申込要  
ワークショップ:  
①竹カゴ作り体験 ②柿渋染め体験  
③機織り体験 ④伝統スweets講習  
◎実演  
①木挽ぎ ②ゴザ編み ③縄ない  
④脱穀、他に販売コーナーあり

## れきみんニュース

### 博物館実習

8月21日  
(金)〜8月28日(金)、本年度第1回の4大学5名の博物館実習が行なわれました。

1日の休みをさむ7日間でしたが、ワークショップや出張授業での普及事業も体験してもらい、実物資料を扱う実習も行ないました。さまざまな講義などから学芸員の使命について理解を深めていただけたと思います。(中村)



横内小学校放課後児童クラブでの昔遊び

### 第5回岡豊山の夏祭り

8月15日(土)、第5回岡豊山の夏祭りを開催しました。

当日は快晴!!!今年も、地元岡豊地区をはじめ多くの皆様にご協力いただき、盛大に開催することができました。

今回は、高知県立高知東工業高校情報技術部の生徒さん手作りの「電流イライラ棒」など体験型のプログラムもあり。また、ものづくり教室では、古新聞を使ってお面や新聞紙バッグ、剣、弓矢、兜などを作りました。みんな真剣でした。

ほかには、縁日やうまいもの屋台、毎年大好評のお化け屋敷!さらには本年より怪談話。線香花火大会も。お昼から夜まで、多くのお客様にぎわいました。

また、開催中の企画展「小さいもの見つけた!」もたくさんのお客様にご覧いただき、夏祭りの1日はエンディングを迎えました。ご来場くださった皆様、ありがとうございました。(道脇)



平成27年 10月～12月の催し

## カルチャーサポーター 募集中

学校団体の体験学習や当館各種催しでボランティアの皆様24名が活躍中です。博物館活動やボランティアに興味のある方を募集しております。電話(学芸課088-862-2211)にてお問い合わせください。



## れきみんサークル 会員募集中

当館主催企画展への無料入館、イベントのご案内送付、図録割引販売などの特典があります。入会ご希望の方は電話088-862-2211でお問い合わせ、もしくは当館HP <http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~rekimin/guide/group.html>をご覧ください。

第4回旧大栃高校民俗資料一般公開

## モノバモノガタリプログラム

10月24日(土)・25日(日)  
香美市物部町旧大栃高等学校にて開催

岡豊風日(おこうふうじつ) 第91号  
平成27年10月1日  
編集・発行 (公財)高知県文化財団  
高知県立歴史民俗資料館  
〒783-0044 南国市岡豊町八幡1099-1  
TEL 088(862)2211  
FAX 088(862)2110  
開館時間 午前9時～午後5時  
休館日 年末年始12月27日～1月1日  
臨時休館あり  
観覧料 通常期(通常展)大人(18才以上) 460円・団体(20人以上) 360円  
(特別展・企画展)通常展示込 510円  
団体(20人以上) 410円  
無料…高校生以下、高知県及び高知市長寿手帳所持者、療育手帳・身体障害者手帳・障害者手帳・戦傷病者手帳・被爆者健康手帳所持者とその介護者(1名)  
印刷・川北印刷株式会社

<http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~rekimin/>  
Eメール: [rekimin@kochi-bunkazaidan.or.jp](mailto:rekimin@kochi-bunkazaidan.or.jp)

## 企画展

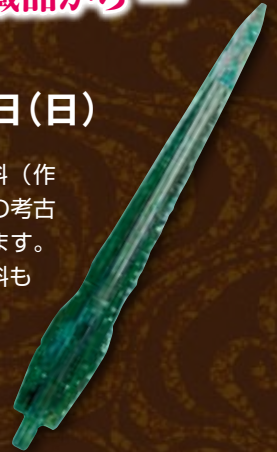
# 里帰り! 土佐の出土品

— 東京国立博物館所蔵品から —

2015年  
10月9日(金)～12月6日(日)

東京国立博物館から高知県ゆかりの資料(作品)が里帰ります。弥生時代から中世の考古資料や尾戸焼など各時代、多岐にわたります。あわせて関連する土佐の考古学史上の資料も展示します。

銅剣 須崎市下分出土  
東京国立博物館所蔵  
Image :TNM Image Archives



講演会 10月31日(土) 14:00～16:00 ●要予約

「意外と知らない東京国立博物館」

講師: 東京国立博物館学芸研究部列品管理課 主任研究員 古谷毅氏

講座 11月21日(土) 14:00～16:00 ●要予約

「土佐の考古学史と東京国立博物館」

講師: 当館副館長 岡本桂典

ミュージアムトーク ●講演会・講座・ミュージアムトークは観覧券要

10月17日(土)・11月14日(土) 14:00～15:00

ワクワクワーク 「ミニチュア鏡をつくってみよう」

11月29日(日) 10:00～12:00 ●要予約(先着15名)・参加費要

## 企画展

次回予告

# おさるの楽園

2016年  
1月2日(土)～3月21日(祝・月)

干支の申にちなんで山崎茂さんのコレクションを中心に猿の郷土玩具を展示します。県内作家による猿などをモチーフにした作品もあわせてご紹介します。



小幡土人形(滋賀県)

## 臨時休館のお知らせ

2015年12月9日(水) 設備メンテナンスのため

## 年末年始休館のお知らせ

2015年12月27日(日)～2016年1月1日(金)